

## 平成 27 年度 第 1 回 四街道市みんなで地域づくり推進委員会 会議録

開催日時：平成 27 年 7 月 8 日（水）14 時～16 時 25 分

開催場所：四街道市保健センター3 階 第 2 会議室

### 【出席者】

庄嶋委員長、猿橋副委員長、小島委員、江口委員、原委員、大沼委員、中村委員、高橋委員

（事務局）

藤森経営企画部部長、永易経営企画部次長（兼シティセールス推進課長）、黒岩主査補、齋藤副主査

勝又（NPO 法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ（NPO クラブ）副代表理事）

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議事
  - (1) 平成 26 年度地域づくりコーディネーター業務報告について
  - (2) 平成 27 年度地域づくりコーディネーター業務計画について
  - (3) みんなで地域づくり事業提案制度（平成 26 年度実施）事業ふりかえりについて
- 4 その他
- 5 閉会

### ○事務局（永易課長）

定刻となりましたので、四街道市みんなで地域づくり推進委員会を開催します。

本日 7 名のご出席を頂いております。

四街道市みんなで地域づくり推進委員会要綱第 7 条第 1 項に規定する過半数に達しておりますので、本日の会議は成立を致します。

申し遅れましたが、私シティセールス推進課課長の永易と申します。

どうぞよろしくお願いいたします。

初めに藤森経営企画部長よりご挨拶を申し上げます。

### ○藤森部長

皆さんこんにちは。

本日は大変お忙しい中、平成 27 年度第 1 回目のみんなで地域づくり推進委員会にご出席頂きましてありがとうございます。

本市では、皆さんご存知の通り、平成 20 年に四街道市みんなで地域づくり指針を策定し、

みんなで地域づくりの推進を図っているところです。

本委員会につきましては、みんなで地域づくりの積極的な推進を図るため広く意見を交換する場として、平成 22 年に設置しました。

また、同年 9 月にみんなで地域づくりセンターを開設し、地域づくりを担う主体同士のコーディネート機能の強化を図っております。

さらに市民団体が地域課題や地域課題への解決を図り、魅力ある地域づくりを実践することを目的としたみんなで地域づくり事業提案制度（コラボ四街道）につきましては 3 年目を迎え、現在順調にその運用が図られているところです。

委員の皆さまにおかれましては、みんなで地域づくりの一層の推進に向け、ご尽力賜りますと共に、それぞれのお立場から忌憚のないご意見を頂きますよう、お願い申し上げます。

○事務局（永易課長）

4 月に組織の改編がございまして、昨年度までの政策推進課市民活動推進室が、今年度より新たに設置されましたシティセールス推進課に置かれることとなりまして、グループ名も、みんなで地域づくり推進グループになりました。

また人事異動に伴う職員の紹介をさせていただきます。

経営企画部長の藤森です。

みんなで地域づくり推進グループリーダーの黒岩です。

同グループの齋藤です。

次第に沿いまして、委員長よろしくお願ひいたします。

○庄嶋委員長

皆さんこんにちは。

会議の前に事務的な確認をいたします。

会議録について、四街道市では発言者名については原則明記となっております。

今回もそのようにしたいと思いますがよろしいでしょうか。

(はい。)

○庄嶋委員長

傍聴希望の方はいらっしゃいますか。

○事務局（永易課長）

いらっしゃいません。

○庄嶋委員長

委員会につきまして基本は公開で、議事運営に支障が認められる場合は非公開ということですが、本日の内容は特段非公開という案件はないですので、傍聴希望者がいらっしゃる場合は入って頂きたいと思っております。

それではご挨拶させていただきます。

改めましてこんにちは。

このメンバーになりまして2年目となりました。

この1年間よろしく願いいたします。

私は基本、四街道市に来るのはこの会議の時ですが、先月は教育委員会の市民大学講座でお話をさせていただきました。

社会教育の生涯学習的な学びの場を入口にして、地域の活動にどう繋がっていけるかという、これも永遠の課題ですが、特に今はシニア層の方が増えているということで、そのシニア層のマンパワーをどう地域に繋いでいくか、介護保険の見直しの関係で地域包括ケアという考え方も出てきており、介護保険制度といった公助の部分を地域の共助でやっていくという部分も現実のものとなってきていますので、そういう意味でマンパワーをどう確保していくか大事なのかなと思っております。

また来週の木・金曜日に私が仕事で依頼されました研修の仕事がありまして、みんなで地域づくりいわゆる協働についてお話をさせていただきます。

その際、先方から、具体的な事例を紹介してくれるところはないか、と打診がありましたので、一にも二にも迷わず「四街道市があります」とお答えしまして、来週は齋藤さんに四街道市のみんなで地域づくりの事例報告をして頂くことになっておりますので、来週タッグを組んで頑張りたいと思います。

それでは、よろしく願いします。

議事に入ります。

16時頃をめぐりとして進めて参りたいと思います。

平成26年度地域づくりコーディネーター業務報告、平成27年度の業務計画と連動している部分がありますので、合わせてお願いします。

○勝又（NPOクラブ）

資料1「地域づくりコーディネーター業務委託事業3ヵ年の報告」をご覧ください。

平成26年度で本業務が終了しましたので、そのまとめとなります。

10ページ「今後の展開と課題」の3ヵ年の報告とそのまとめを受けて今年度、特にどうしていくかをお話したいと思います。

関連する資料2と資料3も合わせてご覧ください。

資料1の10ページ「今後の展開と課題」で、センターの業務はみんなで地域づくり指針に則ってコーディネーター業務を担ってきました。

具体的な業務としては(1)「地域課題への取り組みのプロデュースに関すること」、(2)「地域づくりを担う主体のネットワークに関すること」を行うに当たって、コーディネーターがヒアリング、相談受付などから地域の課題を把握し、地域づくりサロンなどを開催して、人と人、団体と団体を繋ぐコーディネートを行い、市役所担当課始め関係機関と連携して、市民が主体的に地域課題の解決を図る取り組みに繋げていくことが大切ですので今年度についても同様に進めております。

テーマとしては、地域のコミュニティづくり、四街道の魅力発信や地域の活性化についてということで、地域の活性化や魅力発信につきましては、これまで地域づくりサロンなどから生まれた日替わりシェフの店さくらそう、よつグルメ研究会、マップ活用交流会などの取り組みが進められてきて、今後もこれらの取り組みをサポートしてまいります。

次の段階として市内での情報の発信拠点であることはもちろん、市外に向けた発信等を通して新たな展開が進めていけるようサポートしていきたいと思っております。

もう一つの動きとして、地域の高齢化の課題、それに対する地域のコミュニティづくりとが挙がっています。

先日、自治会情報交換会を開催しまして、特にこの3ヵ年の中で課題となっているのが高齢化ということで、介護保険制度も変わり、これから地域包括ケアが必要だということ、具体的には自治会の中でもそういうサロンを作っているとか、そういうことを始めたいというような声も聴こえましたので、そのような点をテーマにしていきたいと思っております。

今年度も自治会情報交換会を開き、5月は自治会長が新しくなっているので、主にどのように進めたらいいか情報交換をしています。その中でもやはり地域での高齢化の課題をどうすればいいかというテーマが挙がっております。

このことについては、今年度からは地域の居場所、カフェやサロンなどをひっくるめて、地域の人が集まって交流する、場合によってはそれが地域の見守りに繋がるような活動ということで、「コミュニティカフェをつくらう」という地域づくりサロンを開いて、この3ヵ年の中でそういう場ができればと思っております。

第1回目を6月25日に他市のケアラズカフェと呼ばれる介護をしてくれる人・ケアしている人が行けるようなカフェですとか、多世代交流の「地縁のたまご」、「コミュニティカフェ Rindow」、「どんぐりの木」に事例報告を行って頂いた後、グループワークをしました。大変関心が高く、40人以上の方が集まっています。

第2回は実際にその事例報告を聴いた団体に見学に行ったり、第3回はカフェを作るといのはどういうことを考えたらいいかというような講義も含めて進めていき、4回目では立ち上げの為の個別相談会ということで計画しております。

今日も相談が電話でありましたが、高齢者施設をやっているの中で居場所づくりをするに当たって、サロンを開いてくれる方はいないか、という相談があり、いま関係各所への繋ぎをしています。

自治会情報交換会は特に新しい自治会長には情報交換の場ですが、高齢化の課題という

のは自治会情報交換会の中だけではなくて、この 3 年間の大きな課題としてコミュニティカフェづくりなどに取り組んでいきます。

それから子どもをめぐる環境や子どもが育つ環境について、子どもの貧困ということが社会の中でも話題となっており、センターでも家庭支援課にお話を伺って、例えば一人親家庭の方の話を聴きましたが、まだ実態が掴めてはいません。

活動に関することとしては、こども記者クラブ、チームよつてらの活動は、子どもがのびのびと成長するために地域全体で子育てをサポートする貴重な取り組みだと思っておりますので、ぜひサポートしたり、あるいは見守っていきたいと思います。

次に、この地域づくりが多様な人や団体が参加する場にしていこうということで、今年度 6 月に、福祉施設紹介販売フェア「大きなテーブル」を開催しております。

参加団体の方にぜひ積極的にアピールに取り組んで頂きたいということで、今年度は今までに加えてお配りしましたカラーチラシを配布したり、参加団体の情報発信のためにフェイスブック講座を開いたり工夫をしました。

まだ集計は途中ですが 16 団体参加して、二日間で 40 万近い売り上げがあり、持ってきた商品がほとんど完売した団体もあったということでした。

また団体同士の連携も昨年より感じられてきたと思っております。

特に障がい者の方が関わるということでは、主旨が重なる、ちばユニバーサル農業フェスタを一昨年・昨年と開催しまして、今年度も開催します。

市民活動への参加を増やすということで、夏休み小学生ボランティア体験を開催しております。募集が開始され 80 名以上の応募が現在あります。

地域づくり体験プログラム「コラボラ」につきましては、チラシをお配りしていますが、センターで市民の方が市民活動団体の活動に参加できるようにその紹介をした一覧表を作っておりますが、そこに参加して下さる団体向けのチラシです。

これは市民大学とも連携をして、そこで参加についての呼びかけなども行っております。

11 ページの(3)「地域づくりの情報の収集、把握、共有及び提供に関すること」では、取り組んでいることの情報発信に力を入れてきました。

センターのホームページを開設して活用し、ブログ・フェイスブック・ツイッター等もしております。

お配りしていますが、『minnade』という広報誌で地域の活動を紹介しており、3 月発行の第 5 号では、テーマ「高齢者を支える人たち」ということで四街道の中の活動を紹介しております。

6 月発行の第 6 号では、コラボ四街道で地域を変える（前編）ということで、コラボ四街道の採択団体の事業を 5 つピックアップし、またコラボ四街道の制度についても説明をしております。

ぜひ制度を活用しましょうということで後編は 10 月発行を予定しております。

今年度のコラボ四街道の提案にも繋がっていったらと思っております。

コラボ四街道に提案する団体の事業がしっかりできるように平成 25・26 年度と「コラボ塾」を開催しております。

今年度も引き続き開催します。

視察の受け入れも行っていきます。

今年度も 9 月に富里市がいらっしゃるという事を伺っています。

それから大学生のインターンシップです。

これまでも受けていましたが、今年度については大学に募集のポスターなどを持って行きこちらから働きかけ、大学生にも地域づくりの担い手になって頂こうという事と、センターの運営にも新しい視点を加えていきたいと思っております。

資料 2 は、平成 26 年度の事業です。

ちばユニバーサル農業フェスタについては、昨年 2,000 名以上来場と大変賑やかでしたが、今年度も四街道市の魅力を市内外に発信していきたいと思えます。

9 ページ、市民活動団体向けの講座なども開いております。

11 ページ、小中学校の職場体験では、大変人数多く体験にいらっしゃいますので、小学生・中学生にセンターの活動とともに地域づくりを知ってもらおうと思っております。

資料 3 の平成 27 年度についてですが、2 ページ (5) に、今年度新しく行ったものですが、組織マネジメント勉強会を開いております。

これまでは講師の方に講義をして頂いておりましたが、ここでは『ソシオ・マネジメント』というテキストを読み合って自分の団体のことを振り返って意見交換しようということで、10 名前後の方で 5 月・6 月・7 月と開催しております。

2 ページにあります、ちばユニバーサル農業フェスタ 2015 は、第 1 回実行委員会が 5 月 13 日に開かれまして、開催日が 11 月 23 日に決まりました。

これは市外からも出て頂きますが、四街道市の農業に関わる団体や福祉施設にたくさん出店して来場して頂けるようにしたいと思います。

#### ○庄嶋委員長

ありがとうございます。

26 年度の報告、27 年度の計画も含めた上で、みんなで地域づくりセンター事業についての質疑応答ということになります。

皆さんから質問や提案を伺っていききたいと思います。

いかがでしょうか。

#### ○中村委員

地域づくりサロンについてです。

私どもは民生委員と自治会、地区社協との合同で、ひまわりサロンを実施しています。

旭ヶ丘も去年から始めまして、みそらが今年から行っています。

来年からは鷹の台と旭中学校区の中で実施します。

旭ヶ丘はほぼ毎日、子どもは週 2 回の火曜日と金曜日の午後 1 時から 4 時までやっているんですが、これとの協調性というか、地域づくりサロンでは何か一緒にという考えはあるんですか。

#### ○勝又（NPO クラブ）

センターで意見交換などを行う場を「地域づくりサロン」と位置付けしているのわかりづらいのですが、ここで言っている「地域づくりサロン」は、例えばカフェをつくろうと市民の方に集まって頂いて、いろいろな話し合いをしたり情報交換をするという場です。

コミュニティカフェやサロンでは自治会情報交換会の中でも昨年旭ヶ丘での発表をして頂いて、他でもそのように始めるとお話は聞いていまして、自治会の方もすごく関心を持っていらっしゃると思います。

この「コミュニティカフェをつくろう」に自治会の方もいらっしゃって、昨日も柏まで見学に行きましたが、電電栗山の方が栗山細野ふれあいサロンというのをやっていますが、そこに更にプラスしていくことを考えるのに、他市の事例を聴こうということです。

今いろいろなところでカフェとかサロンの事が言われていまして、旭ヶ丘等の例が他の自治会にとっても役に立つようですので、情報交換等にいらっしゃればと思います。

#### ○庄嶋委員長

他にいかがでしょうか。

#### ○猿橋委員

事業報告を見させて頂くと、大変心強く、地域活動の活性化に寄与されているなという印象を持ちます。

もう一方でコラボ四街道のふりかえりシートのところを見ると、お声掛けしたらもうちょっと運営がスムーズになるようなものもみられ、センターでそういうところへお声掛けするとそれぞれの事業が良くなではないかなと思います。

例えばサクラソウフェスタ実行委員会の取り組みはすごく負担があると書かれています。それに対して実行委員会としての疲労感がある訳です。

ひょっとしたら来年は続けられないとなっています。

そういう場合には実行委員会をどうサポートしたらいいのかというようなノウハウだとか、あるいは実行委員の絶対数が少ないみたいなの、そのような方をどう募集するかというようなことに対してもお声掛けしてあげるなど、それぞれのコラボ四街道の支援活動をもっと繋ぎ合わせるようにした方がいいのではという印象を持ちます。

具体的にふりかえりシートをみて、「こういう問題があるんだったらみんなで地域づくりセンターでこういうお手伝いができるかもしれないね」とか、あるいは「こういう問題が

あるのでそれは今後のセンター業務に活かしていきたい」というようなフィードバックみたいなものは何かなさっていらっしゃるんですか。

#### ○勝又（NPO クラブ）

コラボ四街道にセンターとしてどう関わっていくかということで、一つはコラボ塾を活用して事業提案しようということをやってきました。

提案の中身についても、例えば公益性が持てるのか運営がしっかりできるかという事を、コラボ塾の中でどういうやっていけるかがあります。

また、コラボ四街道採択団体に、どういうサポートができるのかという事は、コーディネーター会議の中でも何回か話し合いました、まずは広報をしようという事で、取材に行って様子を発信するとか、何か広報することがあれば手伝うとか、後は先程の「組織マネジメント勉強会」の際にはコラボ四街道の団体にはお声掛けをしています。

その中でいくつか、例えば「ままでのて」が参加して頂いた時に、一般的な事から団体の事についてアドバイスをしたりとしています、まだこれからの課題です。

#### ○猿橋委員

ぜひお声掛けして頂きたいと思います。

#### ○事務局（齋藤）

補足として、センターでも 1 事業につき 1 人担当付けましてお声掛けなどしており、サポート体制も整えております。

広報から事業のアドバイスなどを行っておりますが、団体によっては自分たちの力でやっていきたいというのもあります。

そういう意思がある団体についてはセンターがどこまで関われるかというのがあるんですけども、自らやっていきたいという意思是尊重させて頂くといったところです。

また、本制度については行政との関わりが非常に深い制度ですので、行政からも意見書という形で投げかけしたり、コンタクトは取っているところなんですけれども、まだ課題もあるといった現状ですので、今後は行政やセンターと連携してより充実した事業に繋がっていききたいです。

#### ○江口委員

こども記者クラブが発足して 4～5 年経ちます。

クラブを卒業した子どもたちはどんな状況になっているのか。

どうして訊きたいのかというと、先程サクラソウフェスタの事に関係するのですが、四街道高校の学生たちがサクラソウフェスタに関わっていて、この前校長先生ともお話しする機会があった時に、「是非その子ども達を地域に引っ張り出してほしい」という強い気持



ちをお持ちなんです。

そういった意味で、こども記者クラブの OB の子どもたちが高校生世代になってくると思うので期待しています。

もう一つ、サクラソウフェスタの実行委員会が中心になって松並木通りにサクラソウを植えていました。

その時に千葉敬愛高校の子どもたちも来て、一緒に植えたりしていました。

高校生たちとの関わりはあまり他の団体ではやっていないところで、サクラソウフェスタ実行委員会と一緒にやっているのです、そういうところとこども記者クラブを卒業した子どもたちが一緒に取材に行くとか直接関わるとか、そういったところを働きかけるということがあってもいいのかなと思います。

それとあと一つ、子どもの貧困問題について四街道法律事務所のお話を聴かれたということなんですけれども、具体的にどんな内容だったのか。

それこそこども記者クラブの方から言うと子どもたち自身の視点から貧困の問題、直接関わることは難しいとは思いますが、同級生だとか他の子どもたちの中にどんな事例があるのかというのを子どもたち自身が考え合えればと思います。

そういう事もやっぱりこども記者クラブの子どもたちを育てる意味ではすごく重要なことだと思いますので、そういう事もぜひお考え頂ければと思います。

#### ○事務局（齋藤）

こども記者クラブについては、お話を伺っている中では当時小学 6 生だった子が今高校 1 年生になっていまして、今度は大人スタッフとして関わってくれている子がいたりします。

当然彼らも中学・高校と上がるにつれて、ライフスタイルも変わってきますし、優先順位も変わってくる中で、自分たちの経験したものをクラブ活動に活かしていこう、という気持ちもある子もいると思います。

実際は気持ちがあってもなかなか部活動や塾などで関われない子もいるんですけど、心のどこかでそういった思いを持っている子たちが多いというのは、活動に触れる中で実感しています。

先程のサクラソウフェスタの千葉敬愛高校の学生たちもそうなのですが、サクラソウフェスタに限っては直に学校とコンタクトを取られて、コミュニケーションをとって参画してもらっているという事で非常に良い関わり方をしているなというのは感じております。

こども記者クラブとの連携をというのもあると思いますが、こういった取り組みにうまくこども記者ですとか子ども関係の活動をする団体に関わっていけるように、例えばセンター、行政側が働きかけることは可能なのだろうなと思いますし、ぜひ活動に繋げていければと思います。

○勝又（NPO クラブ）

四街道法律事務所の弁護士が「子どもセンター帆希(ほまれ)」という団体をやってらっしゃるというお話を伺いまして、そこの活動は特に女の子のシェルターを運営しています。

ただその事業自体は千葉市の制度を使って、千葉市の中で作っていくという事で、とりあえずは担当レベルではそういう社会的な課題があるのだという事を認識したところです。

「子育て支援団体交流会」というのを以前に開いてその後開けていないのですが、そういうところで意見交換できればと思っております。

こども記者クラブについては自立していて、クラブ自体でいろいろなテーマを考えてやっていますので、こちらからは提案という事は考えていないですが、サポートさせて頂いてもう少し考えていきたいと思えます。

○江口委員

こども記者クラブが東松島に取材に行っています。

社会的な問題に目を向けるということは大事なことです、同時に自分たちの認知、仲間内の中にどんな問題があるのだろうか、どんな課題を抱えているのだろうかという事を知っていくという事は、すごく大事な事なのかと思って発言させてもいました。

○庄嶋委員長

他にいかがでしょうか。

○小島委員

去年はコラボ塾の後に第 2 回目として中間報告会というのを行っていました、今年はその予定はありますでしょうか。

○勝又（NPO クラブ）

コラボ塾は 9 月に開催予定ですが、流れとしては同じで第 2 回目で中間報告を予定しております。

実際に地域の課題をどう捉えて提案しているのかということを知ってもらうのと、団体が年間を通してどのように実施していくのかを発表して頂くことで良い刺激になればと思っております。

○小島委員

できるだけ私も活動団体のところに行こうとは思いますが、日程調整がうまくいかないと、団体がいつどこで何をやっているのかということがわからないので、できれば一覧のようなものがあるととても行きやすいと思えます。

でも団体数も多いのですごく大変だと思います。

これだけのコーディネーター業務をやってらっしゃる中でそこまでは手が回らないかなと思いますが、できれば私たちも現場の方へ行きたいので、そういう PR もお願いできればと思います。

先程のこども記者クラブに関しては少しだけ関わっていて、私も市民記者をやっているので子どもたちがどういう取材をすればいいのかとかそういうところがあります。

私は台本作りですけれども、いろいろなメディアを彼らに覚えてもらって、子どもの視点でいろんな活動して頂きたいです。

少し厳しい課題を子どもたちに今後与えて、それを彼らと考えていきたい。

今までは結構楽しい、楽しいで何回もやってきたと思うんですけど、本当に地域の課題とか自分たちの周りにある苦しいことだとか、そういう事も自分たちでどう拾い集めてそれを発信するか、ということもそろそろ考えてもらってもいいかなと思います。

面白いなと思ったのは、「組織マネジメント勉強会」です。

普通は講義があつてただ受けるだけですが、みんなで勉強してそれを活かす、ディスカッションするというのは良い形だと思うので、続けて頂きたいと思います。

#### ○庄嶋委員長

他にいかがでしょうか。

#### ○大沼委員

これから、四街道が高齢化社会になって若い方たちも地域を担うというか、若い人たちもぜひ参加してほしいです。

大学生のインターンシップとおっしゃっていましたが、これからですね。

そういった時に四街道の学生に知らせると思うんですが、大学生はあまり見かけたことがないので、どういった発信をされるのか確認したいです。

#### ○勝又 (NPO クラブ)

まだ本当にスタートしたばかりですが、千葉大学と淑徳大学と東京情報大学と植草学園に電話をした上で、ポスターを持って行きました。

あとはインターネットを通して大学生は見聞きすると思いますので、それらを活用して発信していこうと思います。

インターンシップについてセンターから発信して行うのは初めてで、手探り状態ですが一人でも二人でも参加できる形にできたら思っております。

#### ○大沼委員

これから広がっていくと良いなと思っています。

コラボ四街道の事業にしてもやはり次の時代へ繋げていのであればそういった力も必要

ですよね。

だからそういった発信はしたほうが良いと思います。

○原委員

センターのミーティングスペース貸し出しの際は、コーディネーターは入るのですか。

○勝又（NPO クラブ）

カウンターにはいますが、ご自由にテーブルをお使いくださいといったスタンスです。

○原委員

依頼があったら入って進めてもらったりもしてもらえるのですか。

○勝又（NPO クラブ）

たまにあります。

○原委員

例えばカウンターで聞いていて、気が付いてアドバイスをしてあげるとか、そういう場合もありますか。

○勝又（NPO クラブ）

「こういう情報があります」といったことはあります。

○原委員

そういうところで、どんどん次のコンタクト先を教えてあげたりとかしているんですね。

○高橋委員

例えば四街道市の特徴として、団塊世代が多いです。

今年も 83 団体のうち 50 団体を越える自治会長の新人がいて、その中で確かに高齢者が確実に 10 年後には 70 代になって先輩は 80 代になられる。

孤立化という点については非常に私も関心がありますし、市としてのこの地域づくりを超えた大きな福祉の問題になるのではと思います。

その前段として今、市として何をすべきか。

もう一つ、こどもの記者クラブについて、世の中いい事ばかりじゃないです。

取材の時に誰が決めているのかなと思いました。

これをテーマに記事にしようといったときに、格好良い事言えないです。

例えば一番良いなと思ったのは、ゴミの焼却灰をどこに捨てるのかという事を我々大人

も知らない。

しかしそれを取材して記事にしたところ、これはいい記事だと思った。

もっとドロドロしたことが世の中にはたくさんある訳ですよ。

そこに子どもの目線でメスを入れるという事は良い事です。

だからこどもの記者をやりたいというのはいいのですがテーマは沢山ある。

100 あるとして絞れるのは数個とかでしょう。

それは誰が決めているのか知りたい。

さっきのゴミの例みたいなものが一番わかりやすい。

社会問題を子どもの目線で切り込んでいくというのはあってもいいのではないのでしょうか。

だから選択するのを大人だけがやっていると思うので、その辺りに関心があります。

#### ○事務局（齋藤）

毎年新しい記者を募集する中で当然入れ替わりもあります。

入れ替わりがあった時、まずどこに関心を持つのか。

その記事を書くこととはまた別に、関心を多く持ってもらうには入口も大事なんだろうと思います。

社会的なところに入って行く前に、その前段といったところで、限られた回数やスタッフの中でどうやっていくのかというのがあって、そこに持っていくための準備も必要だと思います。

昨年、東松島市や北茨城市という社会的な意義のあるところに行きましたが、その喜びですとか楽しみをまず知ってもらうところから入って、その高まりを受けてどう展開していくかというのをみんなで決めていく、というのがあります。

当然その中で提供する行政側の話ですけれども、提示できない事ももしかしたらあるのかもしれないです。

#### ○庄嶋委員長

みんなで地域づくりセンターは非常に多岐に渡る活動をされていて、例えば大きい自治体ですと、それぞれ専門施設があって、それぞれが面倒を見ている様な部分を、一つで全部やっている感じもあります。

私、最近、地域人材という言い方をしますが、地域に関わる人材をどう発掘して、実際に地域に繋いでいくかというのがすごく大事で、地域包括ケアのような話が出てきて、尚更それが必要になる訳です。

例えば自治会に関してはこうやって自治会情報交換会が定着してきていて、自治会長になられた方にもセンターの存在を知ってもらって、こういう場を設けることができます。

例えば大きなテーブルの様な形で福祉施設との繋がりもしっかりとできているという事

ですが、逆にまだこの辺の地域人材と言いますか地域活動をしている団体の人脈と、センターがまだ繋がれてない、今後ちゃんと繋がりをつくろうと思っているその方法、分野がありますでしょうか。

○事務局（齋藤）

例えば市街地の活性化の動きの中では、これまでセンターの関わりはそれほどなかったなどこの数年で感じております。

ただ、一方で中心となる人物がいらっしゃる場合もあって、その動きを阻害するわけにはいかないのです。その関わり方というのもあると思いますが、これまではそれほど関わりがありませんでした。

○庄嶋委員長

その他の各分野の中心人物の方は把握していますか。

○勝又（NPO クラブ）

全部は把握できていません。

何かテーマが挙がった時にその都度把握しています。

今回「広報担当者によるおもしろ広報会議」というのを投げかけたのですが、それはコーディネーターが広報について情報発信したら市民の方からコメントがきて、30～40代の若い広報担当者が10人くらい集まったのですが、もともとは違う投げかけをしたところからこれまでとは異なる層の人に会えるという事があります。

また、商工関係については、何か行うときには商工会には伺いますが、まだうまく繋がれてないと思います。

○庄嶋委員長

わかりました。

今日、出た話の中で、例えば高校生とか大学生というのは地域人材としてすごく期待されます。

そういう時に例えば各学校が、学校の方でも奨励する形で生徒たちをボランティアに出している機会やイベント、行事などを把握されていたりするのですか。

○事務局（齋藤）

コラボ四街道の事業でもありますが、寺子屋事業の展開が広がってきた関係で市内学校における人材の取り合いが起きています。

この状況の中でうまく集約するために、センター、地域振興財団、地域コーディネーターの方々が一同に介して意見交換を行う中で、窓口を設けて学校の予定も把握しながらう

まく調整していきましようという動きが寺子屋事業の中から生まれました。

各学校への依頼などで、地域振興財団やセンタースタッフが一緒になって伺うことで状況を把握し、集約して共有する場ができています。

寺子屋事業を通じてですが、そういった関係で学校とのコネクションもでき、予定も把握しやすくなっているというのはありますが、いろいろなことを包括的にやっているかというとまだです。

#### ○庄嶋委員長

昨日、地元で青少年対策地区委員会、青少年が健全活動に取り組むための地域の相談会が集まって作る委員会がありました。

昨日、その地区集会で、地域のいろいろな諸団体の方が集まってもらって情報交換をしました。

今年度は2回目でしたが、地元の中学生たちに来てもらって、中学生と地域の人の対話集会をやりました。

メインテーマの一つは、地域の方でいろいろな行事をやっていて、その中でボランティア活動に中学生にも力を貸してほしいと地域の側が伝えて、生徒たちも土日も部活や塾とで忙しいとは言いつつも、でもやはり地域に貢献できる事があったら出て行きたいです、といったやり取りをしました。

その時に、中学生となると中学校区というローカルな形で行動範囲も限られるわけですが、その中学校区範囲ぐらいの諸団体の情報として、地域ではこんなイベントをやっているよという事を改めて伝えたら、「結構いろいろあるんですね」という反応を中学生もしていたので、センターが事前に把握するというだけではなくもっと小さな単位でボランティア活動の機会みたいな事を、若い人材という意味で生徒さん達というのものもあるし、逆にいえばシニアの人材とかそういった方にも何か伝わるような情報提供がそれぞれの場できていくと、地域人材が入ってくるきっかけにもなるのかなと思いました。

では、この議題は終わらせて頂いてよろしいでしょうか。

#### ○庄嶋委員長

引き続きまして、3つ目の議題、みんなで地域づくり事業提案制度（コラボ四街道）の平成26年度実施分の事業ふりかえりに進みたいと思います。

事務局の方から説明をお願いします。

#### ○事務局（齋藤）

先月、ふりかえりシートとコメントシートを送らせて頂いております。

本来であれば、各事業団体からご報告を頂いて、その中で意見交換しながら次に繋がる委員会としての意見を頂戴したいところですが、時間等の都合もある関係で事務局で簡単

な事業の内容とふりかえり、主にこれから課題となってくる点についてご紹介させて頂きながら、皆様の意見を頂戴して委員会としてのコメントをまとめていきたいと思いをします。

○庄嶋委員長

コメントシートですが、記載して後日提出ということでしょうか。

○事務局（齋藤）

今日頂戴できればありがたいですが、日付を設定させて頂いて、ファックス、メールなどで頂戴できましたら、事務局で取りまとめたいと思いをします。

○庄嶋委員長

今日は限られた時間でやりますので、みんなと共有しておきたい自分の感想などを質問や確認するような場という事にしまして、それを踏まえてそれぞれの委員にコメントシートを書いていただき、事務局に提出するという事です。

出てきた意見で、多く共通しているものを中心に、私と事務局で調整させて頂いて委員会としてまとめる、個々の意見は全部載せるといった感じが効率的かと思いをしますがいかがでしょうか。

今日は気になるところ、共有していきたいところや質問を、この場で説明を聞いた上で出して頂くという事にしましょう。

最終的なコメントはまた後で書いて出して頂くという事をお願いします

○事務局（齋藤）

1 団体目「鷹の台を元気にする会」です。

資料の構成としては、事業ふりかえりシートとコラボ四街道のまとめの大きな二つに分けて構成されております。

鷹の台地区の特に子育て中のママを中心としたコミュニティが、その交流と情報交換を行いながら学びの場を作っていく居場所づくりの事業となります。

また、夏休みに子ども向けの鷹の台塾への参加などを行っております。

ふりかえりシートをご覧ください。

なお、25年度からの継続事業となります。

シートについても、主に課題となったところ中心にご紹介させて頂きます。

まず1番、事業の目的・成果について、当初の目的、子育て中の親子のコミュニティスペースをつくっていかうといった中で、概ねこの事業については達成されたと評価されております。

その中で、母親自身が自分の力を活動の中に発揮するような、母親の持つ力を引き出す活動に繋がったと自己評価もされております。



2番、事業の詳細についてです。

役割分担の評価の中で、やや達成できなかったという評価がされております。

市役所のこども保育課・健康増進課との連携を図り出前講座といった形の当初の計画がありましたが、通常の本活動に力を注いだという事で、実施できなかったという事で3という評価がされております。

実施体制をご覧ください。

これは非常によくできたという事で自己評価されているところですが、当初利用者側であったママたちが、昨年度につきましては実施主体・運営主体に回った方がいらっしゃったという話も伺っております。

こういった形での体制の強化も、去年の活動の中で図られたといった評価がされております。

4番、総括のコメントをご覧ください。

やはりスタッフの問題、今後補助金がなくなった後の財源の問題、これが課題としてあり、昨年度、自治会との連携を図れたといった実績があるという事なので、こういったコミュニティとの連携を図って行って活動の幅を広げて行きたい、といった総括のコメントがあります。

2つ目、「四街道こども記者クラブ」です。

センターの事業の報告でもあった通り、子どもが地域に出るきっかけをつくるために、こども記者という形式をとって地域参画を図っていく取り組みです。

去年は、東松島市、北茨城市への取材など、広がりある活動を行っている事業となります。

ふりかえりシートをご覧ください。

事業目的・成果については、当初の目的が達成されたと評価されております。

その中で実施体制をご覧ください。

やはりスタッフの問題がこちらもございます。

作業面での時間等に負担があり、また去年の場合、多く遠出した実績もあるという事で、金銭的な負担もあったという事で、今後その課題の解決について検討の必要があるといった評価がされております。

事業全体の総括は、昨年度こども記者クラブの活動を通じて様々な主体と連携が図れたといった評価がある中で、活動の中で今後は地域の課題についても視点・焦点を当てて、その取り組みに組み込んでいきたいといった総括のコメントがされております。

また5番、担当課のふりかえりもご覧いただきたいのですが、特に昨年度につきましては、東松島市の取材に行った際に、秘書広報課が現地との調整・コーディネート役を担いまして、まさに行政と連携して一つの事業を遂げたといった実績がございます。

また北茨城市につきましては、廃棄物対策課が窓口となって、そのコーディネートを行ったといったところで、こちらも行政とうまく連携を図って、子ども達の活動にポジティ

ブな結果を与えたといった実績もございます。

「四街道ともに築く未来の会」のふりかえりシートをご覧ください。

こちらにも既に 9 回目を迎えている継続事業となっておりますが、去年で言えば、みそら小学校でわくわく市民活動フェスタ、また、地域課題に連動した市民活動の協働のあり方を学ぶフォーラム、この 2 本立てで地域活動に参画してもらった活動となった事業です。

ふりかえりシートをご覧ください。

事業の目的の達成度・成果についても達成できたと評価されています。

特にわくわく市民フェスタにつきましては 42 の市民活動団体が介しまして、多くの来場者が市民活動による協働に触れる機会がありました。

事業の詳細につきましても、担当課への適宜相談があり、必要に応じて連携も図りました。

概ね順調な取り組みであったと自己評価もされております。

4 番をご覧ください。

42 団体の出展があったとありましたが、ふりかえりの中で出展団体についても、出展するだけに留まっているといった団体も見受けられ、この中で、どう協働の意味を深めていくか、この改善が求められるといった自己評価もされております。

また今年度をもって補助金も終了する中で、市または地域振興財団等への協力体制の再構築の検討を始めていくといった総括のコメントもされております。

続きまして、「サクラソウフェスタ実行委員会」です。

こちらにつきましても継続事業となっておりますが、既に 4 回行われているところですが、市の花であるサクラソウを冠した、特に若い人たちが音楽やダンス等を通して集うイベントを毎年 4 月に開催する事業です。

ふりかえりシートをご覧ください。

先程ございました通り、事業については当初の目的を達成されたところなのですが、2 番の事業詳細について、スケジュール・手法についてやや改善の余地があるという評価があります。

委員が本来のお仕事を持っている中で、企画をする時間や人員の問題で非常にタイトであったと、厳しい運営であったということが自己評価の中でもされております。

実施体制においては慢性的な人材不足があり、今後、事業継続をしていくにはなかなか見通しが無いといった自己評価もされております。

総括の自由意見をご覧ください。

今年度年は補助がないところで 4 月に開催されましたが、次年度以降についてはなかなか継続が難しいのではないかとコメントが出されております。

「にこにこ文庫さとの子会」のふりかえりシートをご覧ください。

これも継続事業で、2 年前にもねの里のご自宅に家庭文庫を開設して、地域の子どもたちの居場所づくりを行うといった事業の更に拡充を図る事業です。

事業の目的・成果についてのふりかえりで、数字も具体的に記載されておりますが、週1回の開催で延べ2,000名を超える親子が文庫にいらっしゃった実績もあり、その中で築き上げた交流ですとか関係性が今も続いているといったお話も伺っております。

事業の詳細についてのふりかえりでは、やはりここの団体も他の団体と同様、特定のスタッフへの負担が増えている現状があるといった課題があります。

今後、運営会議へのより深い参画、仕事の内容を明確にして、多くの参画が得られるような努力をしていきたいといった評価をされております。

総括コメントをご覧ください。

先程もご説明しました来所者数が2,000名を超えたというところで、嬉しい悲鳴ですが、ゆっくり親子で本を読む時間が充分取れなくなってきたといった現状もあるという事で、事業の時間の工夫ですとか、内容の工夫をするといった課題があります。

○庄嶋委員長

では、質問ですとか全体として共有しておきたい感想などありますでしょうか。

○高橋委員

サクラソウフェスタに非常に興味がありますが、まず15のうち今年予算がついて動き出して採択されているところはどこですか。

○事務局（齋藤）

動いているのは鷹の台を元気にする会、四街道ともに築く未来の会、にこにこ文庫さとの子会、栗山みどりの保全事業実行委員会、よつグルメ研究会、千代田地区市民有志会・千代田花壇愛好会、休耕地等村おこし同好会、Y・Y・NOWSON、四街道マップ活用交流会、ままのて、四街道・科学未来からくり倶楽部、ナイトハイクと森キャンプ実行委員会です。

○高橋委員

まず鷹の台を元気にする会ですが、自治会費はどのぐらい出てるのですか。

○事務局（齋藤）

自治会費は当てられていません。

○高橋委員

ゼロですか。

それは虫が良すぎる。

決算17万円で、会費等が10万6,000円とありますが自治会費ではないんですか。

○事務局（齋藤）

自治会単位では動いていないです。

○高橋委員

けどほとんどが自治会員でしょう。

○事務局（齋藤）

自治会の構成員でもあるという事です。

○高橋委員

ほとんどが構成員でしょ。

○事務局（齋藤）

メンバーの自治会の加入状況は把握しておりません。

○高橋委員

自治会費はどれだけ援助しているのか。

○事務局（齋藤）

自治会費は出ていないと思います。

○高橋委員

出ていないで、市の税金 17 万で事業をしているということですか。

○事務局（齋藤）

はい、そういう制度です。

○高橋委員

これは自治会の方から出すのが当然じゃないか。

要するに、80 ある自治会が全部これと同じようにやりますといたら、我々は採択するのか。

○事務局（齋藤）

これは自治会で動いていないです。

○高橋委員

自治会で動いていないなら尚更。

自治会からの金はゼロで、コラボ四街道でやりますからお金頂戴と言ったら少しおやと思います。

あとサクラソウフェスタは、何とかならないのかという気持ちがあります。

一つ知りたいのは、市として大きいイベントは何か。

知っているイベントは10月10日の体育の日のイベント、ガス灯ロードレース大会、産業まつりで全部秋に開催している。

年間通して大きい事業で、市の主催ないし後援事業は何ですか。

○事務局（齋藤）

他には、8月にふるさとまつりがあります。

○高橋委員

という事は春にはないです。

私は春に事業を欲しいなと常に思っています。

だから四街道市何周年といった時に、こういうイベントがいいと思っています。

その中で一番大切なのは継続するという事。

いったん終わると始めるのが大変。

私はこの事業は細々とでも続けてほしいです。

舞台装置と音響装置で予算の半分かかっている。

そんな大々的な事をやらなくてもいいから、若者が飛んだり跳ねたりする路上ライブでもいいのではないかな。

私は参加していないので申し訳ないけど、報告を見るとそれしか感じられない。

例えば私の住んでいる和良比には、はだか祭りというのが2月にある。

起源はよくわからないけど、どう見ても農閑期に何もやる事ない若者たちが、酒を飲んで騒いでいるうちに田んぼに行って騒ぎ出そうとなった。

その意義づけとして、五穀豊穡を願って今年はいいい米ができるように、子どもたちが成長できるようにというところをドッキングさせて、長い間事業としてやっている。

だから奇祭です。

ふんどし姿でただ泥をかけ合っているだけなんだから。

四街道の21世紀のはだか祭にすればいいじゃないかと思うんです。

若者たちが何かやりたいんですよ。

だったら路上ライブのちょっと大がかりなものにして、舞台装置とか音響なんて考えないでやればいいです。

文化センターの広場でやればいいんですよ。

それで継続してほしいと思います。

お金かけて店を出すとか、バスを呼んだり、牛を連れて来たとかではなくて、何かやりたいというのは非常にいい事だと思うので、春の事業として位置づけをはっきり付けければ、おもしろい事になると思います。

よさこいなどは、若者たちが踊ったり跳ねたりやっているのだから、つぶす事はないんであって、お金をかけないで継続してほしいです。

○庄嶋委員長

ありがとうございました。

質問ですとか、共有しておきたい感想とかありましたらお願いします。

○原委員

にこにこ文庫さとの子会で、家庭支援の違う形での取り組みをするということが、家庭支援課から提案されていましたが、今年度はそちらの方向にも進んでいるのでしょうか。

○事務局（齋藤）

社会教育課の放課後子ども教室推進事業でしょうか。

○原委員

午前と午後で分けた方がいいとシートに書いてあります。

○事務局（齋藤）

社会教育課でそういった検討をしていきたい事業であるという位置づけです。

○事務局（黒岩）

どうしても放課後を使って学校の学童を利用するとすると、午前中は今まで子どもとお母さんで利用していたものが、そこで切らなければいけないです。

その辺りやはり今後検討していかないといけないということで、今後の課題だと書かれていると思います。

○庄嶋委員長

次の5つの事業報告をお願いします。

○事務局（齋藤）

6番目「栗山みどりの保全事業」をご覧ください。

今年度6月に全面供用開始したところですが、「たろやまの郷」という愛称が付いていま

して、こちらの自然環境の調査、水田管理などを行う事業です。

市の都市計画課とのコラボ事業で、密に連携を図って事業を進めています。

事業は順調に今年度の全面開業に向けて実施がされたといった評価がされております。

一方で詳細のふりかえりの中では、事業実施団体の意見では、より行政が予算をつけて実施する事業ではないか、実施に当たっては、より人的費用を当てるべきではないかといった感想、評価がされているところです。

総括のコメントをご覧ください。

限られた費用の中の少ない予算の中で十分な成果がでたといった評価がされております。

今後、管理の問題、複数またがっている運営団体との関係性などの整理をこの1年かけてしていきたいという評価がされております。

担当課の都市計画課の評価については、全て達成できたという評価をしております。

今年度の全面供用開始に当たって、担当課もかわら版の発行を行うなど、取り組みを多くの方に周知するバックアップなどを行っていたところです。

続きまして「よつグルメ研究会」のふりかえりシートをご覧ください。

継続事業となりますが、市民有志の団体が四街道市のご当地グルメを研究して試作し、広めて行く活動となります。

こちらも政策推進課、産業振興課とのコラボ事業となっております。

実施団体の評価は、当初予定していた目的、成果等は達成できたと評価がされております。連携協力の効果をご覧ください。

こちら也大いに効果があったと記載されておりますが、栄養士会、商工会、またはコラボ事業であるY・Y・NOWSON等、協力を図って多くの方によつグルメの取り組みを知って頂く機会が得られ、大いにその連携の効果があったと評価をされております。

全体の総括としても続けてきた成果が出てきた、多くの方に広まっていき、知名度も上がってきたという自己評価がされております。

政策推進課の評価については、役割分担において、行政サイドとしてどちらかというサポート側に回り自己評価3とされておりますが、適宜相談等があった場合担当課で受けさせて頂いて、繋いだり、アドバイスをするなどを行っていたところです。

産業振興課のふりかえりとなります。

特に産業振興課につきましては、事業の目的・成果についてのふりかえりにもある通り、場の提供を行ったところです。

「いんばふれ愛フェスタ」の出店斡旋ですとか、産業まつりの出店ブースの確保、商品の周知活動を行ったというところで、上手く連携が図れたものとなっております。

総括の中にもございますが、特に商店会への働きかけ・橋渡しを今後も行って、幅広い活動に繋げていこうといった総括のコメントがされております。

続きまして「千代田地区市民有志会・千代田花壇愛好会」のふりかえりシートをご覧ください。

この事業につきましては、千代田の調整池周辺の緑地の整備・保全を通して、地域住民の憩いの場づくりを行う事業となっております。

こちらは新規の事業となっております。

概ね、当初の目的が達成されているといった自己評価されているところですが、やはり実施体制のところでスタッフの高齢化に伴う人的な負担があり、より若い世代の参画が得られるような事業の周知を図っていきたい、といった評価がされております。

総括のコメントにもある通り、整備した後の維持管理、財源確保について、検討し協力を仰いでいきたいといった評価がされております。

続きまして「休耕地等村おこし同好会」の事業です。

こちらにつきましては、休耕地を活用したホンモロコを養魚し、休耕地の活用促進・ホンモロコのブランド化を図るといった事業です。

事業の目的・成果について3といった評価がされております。

当初予定していたホンモロコの生産量が満たなかった、また、稲作の収穫量も予定の3分の1しかなかったといったところで評価されております。

また、実際の事業のスケジュールや進め方ですとか、他団体との連携についてもなかなかうまく繋がることができなかった、また手続きの遅れがあったといった自己評価がされております。

総括のコメントとしては、休耕地の有効活用といった視点で、団体としては行政としても有効な対策案を提示して頂きたいといったコメントがされております。

最後に、「Y・Y・NOWSON」のふりかえりシートをご覧ください。

Y・Y・NOWSONにつきましては、昨年度は拠点づくり部門・地域づくり部門の2部門にエントリーされておりますので、シートを分けております。

まずは拠点づくり部門です。

この事業につきましては吉岡地区の自然、文化に触れる中で、地域のコミュニティの場になるような事業を行っていくための整備事業となっております。

事業は、当初予定していた整備、運用が図られております。

一方で可能な限り業者を使わずに工事を行った関係で、特にスケジュール・手法の項目にあります通り、井戸の上総掘りについてはメンバーが行ったこともあり、年度末まで完成しなかったということがありましたが、無事3月末には完成しております。

地域づくり部門のふりかえりシートをご覧ください。

こちらについては、整備した場を活用したソフト事業を行ったものとなります。

目的・成果については、整備した拠点を使って、例えば東京情報大学の先生をお呼びした地域の伝統文化・民族などを学ぶ講座を開いて、地区の歴史などに触れる機会を創出しました。

一方でスケジュールについては、初めて東京情報大学との連携を図ったというところで、なかなか最初はスムーズにスケジュール上通り進まなかったといった評価もありますが、



無事、事業は実施されているところです。

実施体制につきましてはやはり特定のスタッフに負担がかかっているといった課題も挙げられております。

総括については、当初の予定通り、団体の名称のようにその地区の方々が集まり、わいわいと人が集まる賑わいのある居場所づくりができたと評価されており、予定していなかった子どもたちの遊び場としてもその場所を活用する団体も増えてきているといった総括のコメントもされております。

○庄嶋委員長

何かご質問ありますか。

○高橋委員

たろやまの郷に初めて行きました。

気がついたのはまずトイレです。

これはどのぐらいの間隔で清掃されているのか。

○事務局（黒岩）

週 1 回程度では行っているんですが、今管理している団体の方たちも、なかなかトイレを常時清潔に保つ事が厳しいようです。

その辺は少し相談を受けていて、たとえば障害者が仕事をするという取り組みを障害者支援課でも行っているのですが、仕事としてそういったことができないかということは、都市計画課と障害者支援課の担当で話し合いを始めているというような状況です。

○高橋委員

行った時に気持ち良く入るには、定期的きちんと管理者が掃除しないといけません。

あと田植えをするなど四街道ならではの、東京では絶対にできないものをすればいいイベントになる。

○事務局（黒岩）

トイレも、やはり汚した人がきれいにするというのも一つであるのかなと思います。

ブラシを置いておいて、飛び散ったらブラシでこするというのも求めでもいいではないかと思っています。

○猿橋委員

この事業はかなり面白いと思ひまして、ただ、どちらかというと市との協働の面が強く、これを進めている責任者も身を粉にして、少ない報償費の中で、たぶんそれ以上の時間と

労力をかけていると思います。

今後継続していく上で、やはり実行委員会としてやるとすると結構負担になります。

市の美化の業務を自治会が受託するようなアダプトなどに力を入れた方がいいと思います。

というのは市の経費節減額がすごく多いと思います。

その一方で実行委員の負担が多すぎて、これから運用するのは厳しいということがあると思います。

コラボ四街道を活用することで経費はある程度減るのかも知れませんが、3年間という限られた事業ですので、終わってしまったら、トイレが汚くなってしまったり、草が生い茂ってしまいますという事になったら、何の為にやったか意味がなくなってしまいます。

ここでいう生物の多様性とか子どもの遊べる場、市民の憩いの場というような事は必要な拠点になると思います。

それを実行委員会だけに依存するのではなく市としての具体的な、継続的なサポート体制が取ればいいのかと思います。

それから、私自身でも結論が出ないのですが、ボランティアというと無償というイメージがあり、我々のような年金をもらっている世代はそんなにお金もらう必要はないのかもわからないですが、もしかしたら共稼ぎの方とか若い人が、お子さん方が参加するというような事があるとなれば、自分はパートに行きたいんだとでももう一方ではこういうボランティアもやってみたいんだというような時に、ある程度有償ボランティアに対して、考えを整理して、ある程度収入が見込めるような形で、尚且つやるべき事を市民活動としてやれるような体制づくりというのは検討していいのかなという感じを受けました。

#### ○高橋委員

公道の芝のところをシルバーセンターが草刈りをしています。

たろやまの郷で行うという考え方ができるかどうか。

#### ○江口委員

全く同感です。

市長がいつも仰っていますけれど、四街道市の売りの中に緑の自然豊かという事があります。

様々な自然団体がありますが、ここは集約して、継続的に市でもしっかりとした形で協働して進めていくべきだと思います。

もう一つ、千代田地区市民有志会・千代田花壇愛好会についてですが、例えば旭ヶ丘の場合、環境美化をしている団体がいろいろなところを清掃されています。

コラボ事業ではなくて、環境美化の会のような地域での取り組みで、あまり負担にならないような形でいかに継続していくのかという、そういった方向性を考えていくべきだろ

うなと思っています。

これは他の地域も共通する課題かなと思います。

#### ○猿橋委員

休耕地等村おこし事業で、目的の達成度について3という事で、40キロを想定したモロコの生産量が21.5キロしかできなかったということで評価が3となっていますが、活動について手抜きをしたとか、やる事をやらなかったという事であれば3になっても仕方がないと思いますが、やるべき事をやって、でも尚且つ初年度であるからなかなかそこまで想定していた生産量にならなかったという事で、自己評価では、個人的には評価1でもよいのではと思います。

尚且つ、これについて評価3だから今後の進め方に重きを置かないという事ではなくて、それらの反省を踏まえて、よりモロコの生産量を上げるような工夫を次年度へ、その次へというように積み重ねていけるノウハウがここで得られてきていると思うので、それをもっと積み重ねて頂けたらいいなという感想を持ちました。

#### ○事務局（黒岩）

たろやまの郷についてですが、皆さんからお話しが出ていますように、担当する都市計画課としても、今後の継続についてどうするかという事は、当然団体の方とも話し合っておりまして、このコラボ事業自体が総合型補助金でいろいろな分野にまたがっております。

それで、あくまでもこの補助金はきっかけづくりの為なので、3年間実施して今後の展開について、それぞれの現場がそれぞれの団体としっかり話し合ってもらって、そういったところが今進行している最中ですのでご報告だけさせていただきます。

#### ○庄嶋委員長

出口論と言いますか、特にコラボ型の場合は、市も位置づけてやっていると思いますので、この後どうするかという話をして頂ければと思います。

#### ○事務局（齋藤）

「四街道マップ活用交流会」をご覧ください。

マップ活用交流会は、事業としては新規となります。

四街道市内にある様々なマップの情報を集約して、四街道市の魅力発信に役立てるコース作り、実際に発信を行う、またデータベース化を行うといった事業内容となっております。

事業は順調に行われていると伺っております。

評価の方も概ね達成できていると評価がありますが、事業の目的・成果についてのデータベース化は、どういった形の情報の集約をしていくのか、収集を蓄積していくのかとい

ったところで、検討段階に留まっているといった状況です。

スケジュール・手法についても、データベース化の仕方・方法・手法、どのように何をデータベース化していくかといったところについて課題があると評価されております。

実施体制にて、昨年度は 2 回、魅力発見ツアーが開催されているところですが、参加者は非常に多くありました。

その中で、やはりメンバーだけで人員が足りないといった課題が出てきております。

ガイドとの連携などをうまく図りながら、人材育成、人材情報を収集していくといった課題が挙げられております。

現在、駅改札出口にマップラックを置いているところなのですが、非常に多くの人が行き交う場所という事もあって、マップ情報を多く手に入る方が多いという事で、資料の印刷費用、それを補充する人力的な問題など、これをどう解決していくかの課題が挙げられております。

総括のコメントをご覧ください。

昨年度、1年を通しまして活動してきた中で、イベントの企画から運営・資料の作成・サポート体制など、徐々に体制作りが図られているといった評価があります。

またこの充実を図っていく中で、人数・資金の課題もあるので、この拡充を図っていくといった評価がされております。

本事業もコラボ事業という事で、政策推進課ので一緒に取り組みを進めてきました。

概ねマップ活用交流会の活動をサポートするといった関わりが多かったのですが、市政だよりへの掲載、みんなで地域づくりセンターのコーディネーターとの関わりを通して、マップ活用交流会の活動をサポートして参りました。

また、マップラック、発信基地の設置にかかる庁内調整などを行っております。

また産業振興課では、千葉県観光物産協会にて公開しております、「週末ぶらり千葉の旅」といったサイトへの掲載に係る手続きを担いました。

マップ活用交流会の蓄積したデータをこのサイトに提供して、多くの方に見て頂いたといった関わり方をしております。

また適宜、商工会などとの連携を図っていく橋渡しなども行っていきたいといったコメントがされております。

窓口サービス課では、四街道駅にあります市民サービスセンターへのマップラックの設置について協力をしたといったコメントを頂いております。

続きまして、「ままのて」です。

事業としては、四街道のママたちの自立に向けたコミュニティづくりとして、学びの場づくり、イベントの企画運営を行った事業となります。

当初予定されていた事業については順調に行ったところですが、ままのてさーびすに関してのみ、これは仕事の受注について斡旋、実際のアクションを起こすサービスで、事業の推進を図りましたが、具体的に動いた実績がなかったといった評価がございます。

その他、担当課との調整、連携体制については、概ね少ない人員の中でも行えたといった評価がされております。

ママたちが始めた 1 年目の事業ですが、今後各取り組みについての充実等図っていきたい。

また、それぞれ関わっていくメンバーの負担軽減のために、事業の手順ですとか方向の見直しを図っていきたいといった評価がされております。

先日、ままのてまるしえ！というイベントが文化センター開催され、おおよそ 450 名の方が来場されました。

続きまして、「四街道・科学未来からくり倶楽部」です。

科学を通じて小学校と地域の連携を図って、世代間の交流の場をつくっていく事業として、特に旭小学校の小学生に向けて科学実験を通して科学に触れてもらう機会を創出した事業となります。

事業のふりかえりシートをご覧ください。

事業の目的・成果については、旭小学校において科学実験、工作教室といった形で補助金を活用して実験器具の整備、教材の充実を図って指導を行い、目標を達成できたとあります。

また一方で、旭小学校以外の地区への展開が実現できていなかったといった評価もされております。

事業詳細についてのふりかえりをご覧ください。

役割分担では、教育委員会指導課との意見交換の場を設定し、指導課からは各学校への展開をぜひお願いしますといった意見がありました。

担当課と情報を密に交換しながら事業の改善を図っていききたいといった評価がございます。

実施体制については、少ない人員でやっていく中で、昨年度 1 年間通して、会員が 5 名から 11 名に増えたといった報告があります。

総括コメントについては、コラボ四街道の制度を活用した事によって、市役所の担当課をはじめ、関係機関とのコミュニケーションがうまく進むようになったといった評価があります。

また、旭小学校区に限らず、市内全域での会員の募集ができるようになったといった評価もされております。

続きまして、「四街道駅開業 120 周年記念展開催実行委員会」をご覧ください。

本事業につきましては、鉄道の歴史と共に歩んできた四街道市において、四街道駅が開業して 120 周年目を迎えたという事で、この歴史を振り返る写真展を開催する事業となります。

併せて四街道市の魅力に触れるまち歩きも実施しました。

ふりかえりシートをご覧ください。

当初の目的としては概ね達成できたという評価がされております。

こちら、実施体制のところ、特定のスタッフに負担が増えてしまい、必要数のボランティアに達しなかったといった自己評価もされております。

総括コメントをご覧ください。

今年度もコラボ事業への応募があり、残念ながら不採択となりましたが、補助金なしで活動しているといったご報告も受けております。

またスタッフ、財源の確保が課題であるという事で、それを検討しながら今年度も活動を続けているといったところでございます。

この事業につきましては、当初 50 万円の補助金を決定額としてたところでしたが、配布用の事業報告書の作成が叶わなかったといったところで、補助金の返還を受けているところでございます。

最後に、アンダー19 部門「ナイトハイクと森キャンプ実行委員会」をご覧ください。

こちら、継続事業となりますが、四街道市内の小・中学生が中心となって、夏休みのキャンプを行ない、その中で実行委員も高校生、大学生などの若い人たちが担いながら子どもたちとの交流を深める中で、自立性や社会性を身につけていこうといった事業となっております。

事業の目的・成果について、四街道市内の 12 校の小学校のうち 9 つの学校から参加があり、当初の目的としていた異年齢の交流を通して自主性・創造性・協調性を育む事が出来たと自己評価されております。

スケジュールについて、当初、夏に予定していたところですが、台風の影響でキャンプが中止になっております。

この後、次善策として秋に開催したところで、うまくスケジュールを組んで実施に繋がっていったといったご報告も受けております。

実施体制の経費をご覧ください。

こちら、事業としては成果があったといったところですが、動き出しの遅れがあり、高校生を中心としたボランティアスタッフがなかなか集まらなかったといった課題がありました。

今年度も採択されている事業なのですが、すでにボランティアのスタッフ募集も動き出しており、この反省を生かして今年度事業に繋がっているといった報告を受けています。

○庄嶋委員長

ありがとうございました。

ご説明のあった事業について何かございますか。

○大沼委員

有償ボランティアという言葉について、ボランティアだけでも交通費などが出ていま

す。

希望ですが、有償スタッフといった表現にしてほしいです。

あまりボランティアで有償という言葉セットで使ってはほしくないです。

○庄嶋委員長

一つ言葉の成り立ち上であるのは、最低賃金より低い額を設定していると、いわゆるスタッフというとしっかり仕事として給料をもらっている人もスタッフと呼ぶので、混乱してしまうので、あえて有償ボランティアという、最低賃金よりは低いから労働ではないよという形で参加してもらっていますというので成り立った言葉だろうと理解をしています。

○大沼委員

書類上のことではあると思うのですが、心情的にそういう気持ちでいました。

○高橋委員

その件は反対です。

スタッフというと明らかに労働対価を伴うもので、今回のような件は、ボランティアです。

この世の中、銭にならなかつたらみんな手を出さないじゃないですが、そんな中で地域づくりを進めようとしているのだから、ボランティアですよ。

○庄嶋委員長

そこは四街道だけの問題ではなく、世間一般で言われている言葉をどう使うかという問題なので、混乱がないように使うというのは一致しているかと思います。

○原委員

四街道マップ活用交流会の経費で、旅費で仙川とありますが、仙川に該当する資料はどれが教えてください。

○事務局（齋藤）

内容としてはマップを活用した地域づくりを行っている先進地域です。

マップを集約して、そのまちの魅力づくりに資するもの作っているところです。

その視察分と報告を受けております。

○原委員

その視察は事業計画には入っていましたか。

○事務局（齋藤）

委員会としては視察については公共交通機関でといった整理がされておりますが、金額的にも電車で行かれたという事ですので、事業をより深く展開する為にも必要があったという事で、事務局でも認めているところです。

○猿橋委員

四街道駅開業 120 周年記念展開催事業で、模型を貸し出したりするのは見たのですが、結局そういった物を見ないと、またこの事業が何かというパンフレットがないと、すごくイベントとしての意味合いがないのではと思います。

120 周年でミニ機関車が走っていて終わったとすれば物足りないなと思います。

やはり 120 年前に四街道駅ができて、線路があって、その時の状況がこうだった、というようなパンフレットというのは、結局作る予定があったけど作られなかったという事ですか。

○事務局（齋藤）

報告書を作らなかったという事として、当日は当時の写真の展示を文化センターで行い、説明会も追加して、賑わいづくりの一環としてミニ SL を走らせたというのはありますので基本、展示は行っております。

○猿橋委員

報告書というよりはパンフレットみたいな形で残してほしかったです。

写真展示にはいろいろ説明が書いてあると思います。

そういう物を見ると、「ああ、120 年前の四街道駅はこんなだったんだな」というような歴史がわかればいいなと思いますが、から言っても無理ですかね。

○中村委員

全部写真をコピーして貼ってありました。

今年のコラボ四街道にも応募していますから、その前のものを捨てるという事は考えにくいです。

ただみんなの目には触れない。

他のところでも 1 回出張もやっていたのですよね。

○庄嶋委員長

よろしいでしょうか。

それでは、先ほど確認させて頂きましたように、今日のやりとりも踏まえて、コメントシートにご記入頂きを事務局に提出して、それを元に今日頂いたご意見等を中心に委員会



コメントにし、個々の委員コメントはそのまま綴じて整理するという形でまとめたいと思います。

それでは、議題のその他について事務局から何かございますか。

○事務局（齋藤）

来年度事業募集も昨年度と同様 10 月頃から募集を開始する予定となっています。

○事務局（黒岩）

コラボ四街道の制度が始まって 3 年経ちまして、これまで運用する中で、改善点なども事務局で整理して、またお示ししていきたいと思います。

○庄嶋委員長

それでは、第 1 回みんなで地域づくり推進委員会は以上とさせていただきます。

皆さんお疲れ様でした。